

パラオでの激戦後世に

入植久保さんが資料館 小林

思い

受け継ぐ

戦後75年みやまき

太平洋戦争で激戦が繰り広げられた南洋の島国・パラオから戦後に小林市南西方の環野地区へ入植した農業久保松雄さん(85)が、同市・生駒高原近くの県道脇に同国をテーマとした資料館をオープンした。自然や文化、戦中の様子を撮影した写真などを展示。「悲惨な戦争を経て手に

入れた平和の尊さをかみしめてほしい」と呼び掛けている。久保さんは1940(昭和15)年、5歳で福島県から同国に移住。終戦までの2年半は戦火から逃げる日々だったという。46(同21)年に環野へ入植し、荒れ野を開拓。2000年に宮崎市であった太平洋・島サミットで来県した当時のクニオ・ナカムラ大統領と面会し、翌年には入植者有志と現地を再訪した。施設は20年ほど前に建てた木造平屋(延べ床面積84平方



太平洋戦争の激戦地・パラオを紹介する資料館を開設した久保松雄さん

写真や映像80点展示

館)を利用。同国の集会所を模して、外壁や内装に彫刻を施している。今年3月、同国で生活していた亡父の痕跡を探す神戸市の女性が来訪。「建物を活用すべきだ」と勧められ、準備を進めてきた。現地で撮影した写真や大使館などに提供してもらった資料など80点余りが並ぶほか、全国の引き揚げ者から寄贈された映像、音源もある。美しい島が戦場になり、多くの犠牲者が出たことや、2015年に当時の天皇、皇后陛下が激戦地・ペリリュー島を訪れるまでの経緯が紹介されている。

久保さんは「戦争は、こんなに美しい島にまで悲しみをもたらすむごたらしいもの。簡単に平和を口にしますが、悲惨な戦争で多大な犠牲を出したことを忘れてはならない」と話している。

入館料は中学生以上300円、小学生200円。午前10時〜午後3時。水・金曜休館。久保さん ☎090(9728)4238。(湯田光) ★「プレミヤ」にも掲載